

- 松山市 -

松山駅周辺土地区画整理事業

1. はじめに

瀬戸内の温暖で穏やかな気候に恵まれた松山市は、重信川と石手川によって愛媛県のほぼ中央に形成された松山平野に位置しており、まちとしては、慶長7（1602）年から、加藤嘉明が松山平野の中心にある勝山に城を築くとともに、新たな城下町を整備したことから、松山城を中心に市街地が形成されている。



松山城を中心として形成された市街地

2. JR松山駅

松山市に初めて鉄道が開通したのは明治21年（1888年）である。港のある三津と松山城下を結ぶ軽便鉄道で、現在の伊予鉄道となっている。その後、昭和2年（1927年）になり、ようやく国鉄が松山駅まで開通した。

現在のJR松山駅周辺地区は、県都の陸の玄関口でありながら、JR予讃線による駅東西市街地の分断や松山駅西側の密集した木造住宅等の建築物等の防災面の不安、また中心部との連続性の不足等の問題を抱えている。

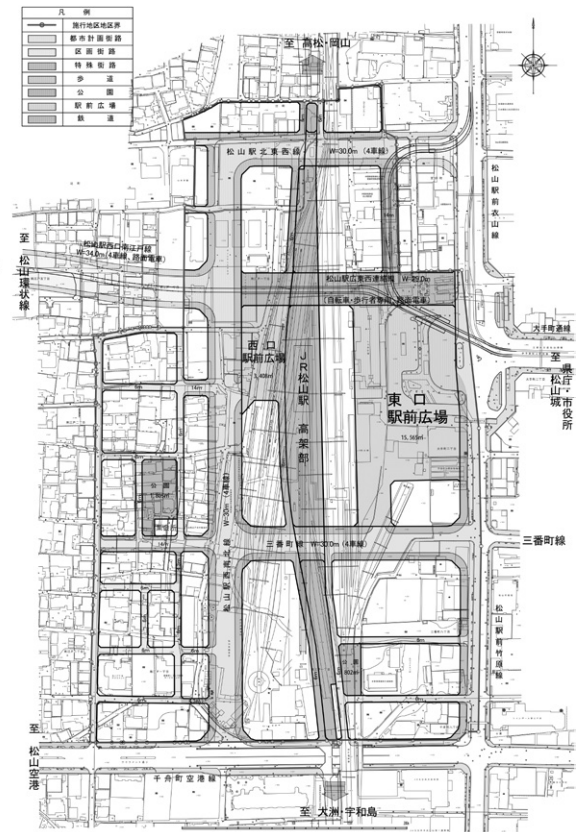
これらの課題を解決するために、JR予讃線の連続立体交差事業を愛媛県が松山駅周辺土地区画整理事業を松山市が行うことになった。

3. 松山駅周辺土地区画整理事業

松山駅周辺土地区画整理事業の概要は、施行面積が約16.7ha、概算事業費が289億円、施行期間は平成20年度から令和13年（清算期間を含む）となっている。

地区の平均減歩率は18.4%で、一般宅地の平均減歩率は約10%である。

この松山駅周辺土地区画整理事業の特徴は、東口駅前広場を拡張し、そこに路面電車を引込むことである。それによって、JRと路面電車さらには路線バスの乗り場がコンパクトにまとまり、シームレスな公共交通拠点となる。また、西口駅前広場を新設し、そこには空港や港にアクセスしやすい駅西南北線を接道させている。



松山駅周辺土地区画整理事業計画図

松山駅周辺土地区画整理事業の令和2年度末時点の進捗状況は事業費ベースの進捗率が57.1%、建物移転率は81.1%となっている。

また、駅西側に広がる住居系の第1期区域が、平成31年に、JR新車両基地・貨物駅が令和2年に完成し運用を開始するなど、令和8年度の工事完了に向けて、県市一体となり事業を進めている。

松山市 都市整備部 松山駅周辺整備課 神野 誠